

## 音楽発表会…「飽きない」 その②

2020. 3. 13

### ○中学年

低学年に続いて登壇した三年生、低学年と明らかに違う発声。「歌を上手に歌おう」という感覚。口が開き、表情が出て、顔で歌おうとしていた。

「聞いてもらう」「上手に歌おう」という感覚を感じる。「客席」という他人を意識し始めている。それを私は「他人性への意識」と勝手に表現する。低学年は「歌」より、「歌を歌う自分を見てみて」という自分性の意識。「合唱・合奏を聞いて」という中学年らしい成長を感じる。

休憩終わり、上学年。トップは四年生。下学年と発声が全く違う。大人というか、高学年というか、そういう成長を感じる。

そして、低学年とは雰囲気異なる。その雰囲気とは何かである。低学年は「自分を見て」なのだけれど、四年生になると「学年全体」を意識している。みんなで歌う、その中の一員である…そんな「合」唱を感じる。それが伝わってくる雰囲気の正体なのであろう。

意識としては、「自分」でも「客席」でもなく、ステージの仲間を意識している…そんな感じ。(続く)



☆From the Andromeda☆